

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	家族論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	出口 顕	実務経験と その関連資格	島根大学名誉教授			
《授業科目における学習内容》						
現代日本で10組のひと組の夫婦が不妊と言われ、子を持つために生殖医療により子どもを持つことも普通に行われている。しかし多様性が求められる現代社会においては、家族の形態も多様化し、不妊に悩む人たちだけでなく、性的マイノリティ(LGBTQ)の人たちも生殖医療技術によって子どもをもつことが可能になっている。また欧米では外国から養子をもらう国際養子縁組も家族をつくる手段として定着している。この授業では多様化する家族の現状を学びながら、これからの家族のあり方について理解する視点を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
出席並びに最終テストで総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
その都度関連する資料を配付する。						
《授業外における学習方法》						
配布資料と授業からそれぞれに自分の考えをまとめられるようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
テレビ・新聞などで、生殖医療やLGBTQについてのニュース・番組に注意しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	さまざまな生殖医療の技術を基礎知識をえる	講義資料+テキスト他	復習を勧めます。	
		各コマにおける授業予定	体外受精・配偶子提供・代理出産・死後生殖など生殖医療の基礎知識を説明する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	欧米に比べて日本の生殖医療の法的規制が遅れている現状を理解できる	同上	同上	
		各コマにおける授業予定	生殖医療についてのヨーロッパの法的規制を説明し、国によって規制が異なることを講義する。イギリスと北欧諸国を中心にみていく。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	LGBTへの配慮などを踏まえて、生殖医療についての考え方が変化してきていることを学ぶ	同上	同上	
		各コマにおける授業予定	提供精子による人工授精における出自を知る権利			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	北欧での国際養子縁組の歴史と動向を理解し、日本との違いがわかるようになる	同上	同上	
		各コマにおける授業予定	国際養子縁組の歴史と現状			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国際養子がアイデンティティの問題と切り離せないことが理解できるようになる	同上	同上	
		各コマにおける授業予定	ダブルアイデンティティについての説明			

